

◇ 令和5年度 指定管理者事業評価書

施設名	水生植物公園みずの森			指定管理料	利用料金	支出	経理の状況	施設運営の方針
施設所管課	建設部	公園緑地課	初年度	175,490,000円	12,812,800円	188,237,222円	利用料金の実績は計画より少なかったが全体としてバランスのとれた収支であった。	都市公園であるみずの森の豊かな自然と調和を図り、子どもから大人まで利用できる公園としての運営
施設HPアドレス	http://www.seibu-la.co.jp/mizunomori/		2年目	177,100,000円	14,461,000円	187,318,706円	新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休園などにより人件費を抑えながら園地整備を主体に支出した。	見やすく、いつ来ても見所がある公園を目指すとともに、安らぎの空間を提供するよう運営を行った。
指定管理者名	近江鉄道ゆうグループ		3年目	177,100,000円	14,835,300円	192,893,770円	昨年に続き臨時休園が発生したが、25周年事業等PRを行い集客に努めた結果、昨年を上回る利用料金収入があった。	コロナ感染防止対策を行い、企画展や自主事業を行い、楽しめる植物公園の維持に努めた。
指定期間	平成31年4月1日 ～ 令和6年3月31日		4年目	177,100,000円	18,178,790円	199,505,752円	入園者増による利用料金の増収になった。しかし、原油価格高騰の影響を受け、光熱費の顕著な増加があった。(運営支援金生の補填あり。)	年間を通して楽しめる植物園を目指し、季節ごとに楽しめる花々の整備を進め、そのPRIに努めた。
評価対象期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日		5年目	176,769,900円	19,731,240円	191,191,243円	ハス・スイレンのPRIによる入園者増を受け、入園料収入が事業計画を大幅に上回ることができた。危惧された光熱費の高騰も予想を下回り、安定した運営ができた。	情報発信力をさらに強化し、ハス・スイレンを中心に見どころを広域に広報することで集客に努めた。

●総合評価の基準		
5	☆☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆である
4	☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆である
3	☆☆	評価基準の最も多い評価が☆☆である
2	☆	評価基準の最も多い評価が☆である
1		評価基準に☆が1以上ある

○その他の項目	
公募・非公募の別	公募
使用料・利用料金制の別	利用料金制
指定管理者による運営開始日	平成25年4月1日
施設の供用開始日	平成8年7月13日
指定管理導入前の運営形態	市直営

◆総括評価を概括した総合評価の所見(成果・改善等)

●指定管理者の総合自己評価…	☆☆☆	●市(施設所管課)の総合評価…	☆☆☆
年度の管理・運営に係る事業目標(年度当初に記入) - みずの森の特徴であるハス、スイレンの品種を充実させるとともに、夏季以外にも見所となる花を揃え、年間を通して楽しめる植物園を目指す。 - 広報宣伝力の強化を行い、新たな見どころやイベントをPRすることで年間入園者数89,000人を目指す。 - 施設の長寿命化を前提に、問題箇所等の早期発見による部分修繕と更新を含めた大規模修繕を前提とした修繕に分けた効率的な維持管理に努める。		事業目標および管理・運営に対する評価(事業年度終了後記入) - 年間入園者数が119,200人となり、目標入園者数の89,000人に対して133.9%、30,200人増となり、目標の入園者数を大きく上回る結果となった。みずの森ならではの夏のハス、スイレンの展示装飾をはじめとして、デルフィニウム、アイスチューリップ、クリスマスローズ等の展示が実施され、また令和5年度はみずの森らしい水生植物中心の牧野富太郎特別展示が大変好評で期間を延長して実施された。マスメディア等へも話題提供され入園者数は当該施設での指定管理者制度導入後の最多を記録し、利用料金収入の増加に繋がった。 - みずの森は有料施設として魅力ある植物管理が必要であることから、今後も植物観察および状況変化に応じて適切な管理運営に努められたい。 - 施設の長寿命化のためアトリウム鉄骨サビ部のタッチアップ塗装が実施された。引き続き施設長寿命化の取り組み進められたい。 - 評価基準の最も多い評価に鑑み、当該総合評価とする。	
事業目標および管理・運営に対する自己評価(事業年度終了後記入) これまで猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症も5月にはその扱いが第5類感染症となり、外出することへの抵抗がほぼ無くなったことに加え、夏のハス・スイレンに加え、アイスチューリップ、クリスマスローズ、デルフィニウムなど季節ごとの見どころを創出し、その様子をマスメディアへ積極的に働きかけたことによりテレビでの特集や生中継など取材機会が増え、広くPRすることができた。また夏に開催した特別展示『牧野富太郎と水生植物～ムジナモの発見～』がみずの森らしい展示として好評を博し、その影響もあり入園者数が飛躍的に増加した。結果、年間入園者数は119,200人となり、指定管理移行後最多を記録することができた。他施設との情報共有を目指し、研修会を積極的に受入れ、みずの森の管理状況を発信するとともに様々な意見を聞き取り、運営の参考とした。さらに、日本植物園協会主催の研究会などに参加し、みずの森の事例発表を行い園のPRIに努めるとともに施設間連携の強化を図った。		公募・非公募、使用料・利用料金制の導入についての効果の検証 (応募状況：公募) 施設管理に関して、民間による高い管理技術と経済的運営を行う管理者を求めるため公募による選定とした。 (利用料金制度：導入) 評価対象の令和5年度を含む当該指定管理期間から、利用料金制を導入したことに伴い、中学生以下の入園料を無料、65歳以上の大人の入園料を半額にしたことにより、65歳以上の入園者数の増加につながった。 前年度の入園者数112,838人に対して、105.6%で6,362人の増となった。	

◇施設に係る主な指定管理業務	
水生植物公園みずの森の運営管理において、目指す植物園像の趣旨を十分理解して、管理業務仕様書に沿って次の業務を行う。 (1)有料植物園としての植物等の管理・展示業務、(2)利用者満足度を高め、入園者数を確保する業務、(3)快適な環境を提供するための施設の維持管理業務、(4)ノウハウを活かし、ニーズに合った自主事業、(5)公園の運営管理業務	

◆評価基準	
☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりもはるかに優れた内容である
☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である
☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、概ねその水準に沿った内容である
☆	仕様書・協定書等の基準は遵守し、若干の改善が必要な内容である
	仕様書・協定書等の基準を遵守しておらず、改善が必要な内容である

植物園としての植物等の管理・展示に関する業務（仕様書その1 p4～12、17、その2 P4～61）				
評価項目1	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	花の開花リレーとして花々で飾られたみずの森とするため、春はチューリップやデルフィニウムを充実させたことに加え、これまで栽培をしていたニューサイランが初めて花を付けたことで話題となり、多くの方にご覧いただくことができた。また夏季には高温が続いたため、こまめな灌水を中心に維持管理を行い被害を最小限にとどめた。	上半期評価	ヒヤシンスやチューリップ、デルフィニウムの展示装飾はみずの森ならではの展示となった。また、みずの森での牧野富太郎展において、水生植物（実物）と説明看板および牧野富太郎博士の紹介展は好評で、みずの森らしいイベント実施であったことは評価できる。
	☆☆☆		☆☆☆	
	下半期評価	冬期の見所として人気となっているアイスチューリップをさらに規模を拡大して今年は7,500本を用意し展示を行った。また、ロータス館を彩る装飾として龍とポインセチアを年内に、そして新年からランを展示し、植物を引き立てる装飾品として大変迫力のある展示となり、大変好評であった。	下半期評価	コミュニティ広場でのアイスチューリップの展示装飾はみずの森ならではの展示となっており、展示本数を増やすなど充実が図られたことは評価できる。また、みずの森恒例の干支とポインセチアの展示において松ぼっくりを用いて制作された干支の龍は大変好評であり、みずの森の魅力を引き出すことができた。
	☆☆☆☆		☆☆☆☆	

利用者満足度を高め、入園者数を確保する業務（募集要項P11～12、仕様書その1p7～8、23）					
評価項目2	指定管理者の自己評価			市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	特別展示『牧野富太郎と水生植物』を開催したところ、ドラマの影響もあり大きな反響があり、会期の延長を望む声も多かったため開催期間を予定より2か月延長して対応した。また、広報宣伝の強化によりテレビ番組での特集や生中継などマスメディアでみずの森を取り上げていただく機会が増え、入園者増加に大きく寄与した。	上半期評価	NHKドラマ「らんまん」に関係する特別展示の「牧野富太郎展」実施だけでなく、マスメディアに取り上げられる機会も多く、上半期は入園者数が約80,500人となり、3年連続の増加となっただけでなく、前年度比で約109%と増加した。パラグアイオニバス試乗会等の各種イベントの情報発信を続けてきたことで人気が定着しつつあり、入園者増に寄与している。	
	☆☆☆☆		☆☆☆☆		
	下半期評価	宇治市ボランティア研修を受け入れ、みずの森の視察の後、みずの森で活動するボランティアとの情報交換会を企画し、お互いのスキルアップに努めた。また、日本ハンギングバスケット協会研修会をみずの森で開催し、みずの森の植栽管理について当園職員が登壇して研修を実施し、参加者のスキルアップに役立てていただいた。	下半期評価	好調であった昨年度下半期の入園状況と同程度の入園者数となっており、冬期の入園者数の底支えとなるような多くの展示会やイベント等を実施することができた。また、ボランティア研修の受け入れにより、みずの森のボランティアのスキルアップも図ることができた。	
	☆☆☆		☆☆☆		

快適な環境を提供するための施設の維持管理業務（仕様書その1 p 12～15、その3 p 1～94）				
評価項目3	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	利用者の利便性向上のため券売機の新500円硬貨対応修繕を実施した。アトリウム入りのドアがサビによる作動不良を起こしていたため、開閉装置の交換修繕を行い、施設の維持管理に努めた。	上半期評価	施設の維持管理について、平成8年の開園以来施設の老朽化が進んでいるところであるが、美しく清掃が実施されている。また、不具合箇所についても適宜交換修繕が実施されている。
	☆☆☆		☆☆☆	
	下半期評価	園内舗装路で植物の根の入り込みによる隆起が発生して転倒事故の危険性があったため、直ちに不陸除去の修繕を実施した。アトリウムでは高温多湿による鉄骨支柱部のサビが目立ってきたため、施設の長寿命化の観点からサビの除去と再塗装を行い、サビの進行を防いだ。	下半期評価	景観にも配慮した園路の不陸箇所の補修およびアトリウム鉄鋼のサビのタッチアップ塗装が実施された。長寿命化の観点からも、適切に対応できたことは評価できる。引き続き、安心・安全・快適な利用促進のため積極的に施設の維持管理を進められたい。
	☆☆☆		☆☆☆	

ノウハウを活かし、ニーズに合った自主事業の実施（提案書Ⅲ－8（6）p65～69、仕様書その1p16、18）				
評価項目4	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	『パラグアイオニバスのライトアップ』を開催して普段見ることのできない夜咲きスライの花を観察できる機会としたところ2日間で526名の参加者があった。また、植物への興味・関心を育むことを目的に『みずの森花壇づくり』を実施、保育園にて園児とともに花壇づくりを行い身近な環境でいつでも植物に触れ合える機会を作った。	上半期評価	パラグアイオニバスに係る試乗会、ライトアップ開催は、植物園ならではのであり、みずの森らしい良いイベントが展開され好評であった。地元保育園の花壇づくりにより、地域貢献だけでなく、幼児期から植物に親しむことができる機会を作ることができた。
	☆☆☆		☆☆☆	
	下半期評価	施設間での交流や情報の共有を目的に、在京滋植物園情報交換会や日本植物園協会研究会に参加し、事例紹介を行うとともに、他施設との連携強化を行い、運営の質の向上に努めた。また他組織との連携として、びわこ・おうみグルメライドやびわ湖マラソン2024に協力し、多くの方にみずの森を知っていただく機会とした。	下半期評価	他市の植物関係施設の関係者との情報交換や施設見学はみずの森の価値や魅力を高める良い機会であり、さらに今後にもつながる関係性を築けたことは評価できる。地元保育園の花壇づくりの継続やびわ湖マラソンの会場装飾協力が実施され、地域やイベント協力等を展開することができた。
	☆☆☆☆		☆☆☆☆	